

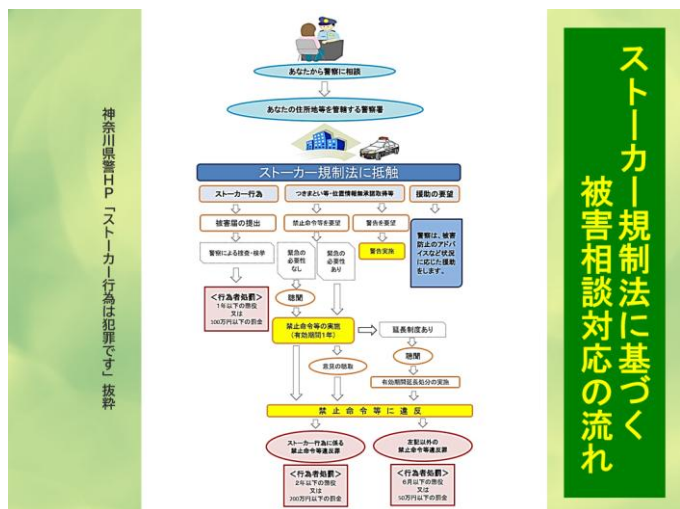


やるきほんき き さ き 木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2025.9.3
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021
Profile
▶1984 年山梨県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

警察はなぜ動けなかったのか 川崎ストーカー事件、県議会で論戦



今年4月、川崎市で20歳の女性が遺体で発見されました。女性は生前、警察にストーカー被害の相談をしていましたが、悲劇は防げませんでした。この事件を受け、先の定例県議会で、大山奈々子議員が警察の対応の問題点を追及しました。

遺族の悲痛な声と指摘された問題点

大山議員はまず、被害者の祖母が「警察がもっと早く動いてくれれば良かったのと思う。対応が遅すぎる」と語っていることを紹介。「守ってあげられなくてごめんね」という遺族の無念の思いは、県行政に関わる者すべてが共有すべきだと述べました。その上で、今回の事件では、①ストーカー規制法に基づく警告や禁止命令が出されていなかったこと②祖母宅の窓ガラスが割られた際に証拠採取をしなかったこと③容疑者宅の家宅捜索で捜索令状を取っていないことなど、数々の問題点が指摘されていると追及しました。これは20年前の桶川ストーカー殺人

事件の教訓が生かされなかった問題であり、迅速な検証が求められると訴えました。

人員不足と研修が課題!? 1人で184件担当!?

共産党県議団としては、この問題の背景に警察の体制的な課題があるのではないかと指摘しました。

人身安全関連事案を担当する課の定数は88人であるのに対し、ストーカーとDVの年間相談件数は合計16,000件を超えています。これを単純計算すると、担当者一人が抱える案件は年間約184件にも上り、人員体制が十分なのか懸念を示しました。

また、ストーカー事案に関する研修は年に3回実施されているものの、担当の警察官すべてが受講しているわけではないという実態も明らかにし、研修の強化が必要ではないかと質しました。



県警本部長「重く受け止める」

これに対し、和田警察本部長は「相談を受けていたにもかかわらず、重大な事案となったことを重く受け止めている」と述べ、遺族に哀悼の意を表しました。今後の対応として、県警内に検証チームを編成しており、県公安委員会の指導の下、できるだけ速やかに結果を公表したいと説明。検証結果を踏まえ、体制や研修の点も含めて改善すべき点があれば改善し、被害者の安全確保を最優先に対応していくと答えました。

YOUTUBEでも動画で紹介しています⇒

